



令和6年(2024年)3月14日 公表  
 令和5年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

マイワシ(対馬暖流系群)

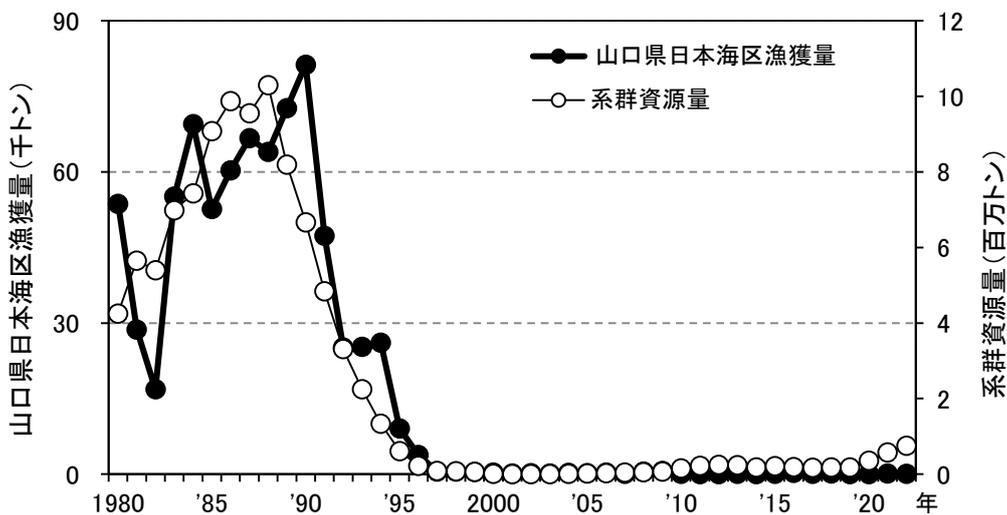


図 山口県日本海区マイワシ漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報)及び対馬暖流系群マイワシ資源量((国研)水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】1980年代から1990年代前半には、まき網や定置網で大・中羽いわし(1歳魚以上)がまとまって漁獲されていた。しかし近年は、まき網による漁獲量が激減し、棒受網・抄網によるヒラゴ(当歳魚)の漁獲が主体となっている。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は1990年の81,286トン进行ピークとしてその後急速に減少した。1997年以降は1千トン以下となり、さらに2010年以降は300トン以下に減少した。2022年は65トンであった。

【資源状態】資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達したが、1990年代に急減し、2001~2003年には過去最低の5千トン前後になった。2004年以降は増加し、2010年に10万トンを超えた後、2019年まで20万トン前後で推移した。2020年より増加傾向にあり、2022年は75.3万トンであった。

2022年の親魚量(SB)は最大持続生産量MSYを実現する親魚量(SB<sub>msy</sub>:目標管理基準値)を下回った。また、2022年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F<sub>msy</sub>)を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
7.1	33.8	38.6	109.3	46.5	6.6